

コロワイド、グループ基幹工場の神奈川 CK で脱炭素推進

～エネルギー監視・制御システムの導入で売上増と電力・ガス使用量の漸減を両立～
～前年度のグループ CO2 排出量は 2020 年度対比 27.1%の削減を達成～

株式会社コロワイド（代表取締役社長：野尻公平、証券コード：7616）は、この度、連結子会社でグループのマーチャンダイジングを統括する株式会社コロワイド MD（神奈川県横浜市西区、代表取締役社長：磯野健雄）が管轄する神奈川工場において、「エネルギー監視・制御システム（以下、EMS）」の実装により、同工場における直近 1 年間の電力・ガスの使用量を EMS 導入前比でそれぞれ 2 割、3 割程度低減するとともに、電力・ガスを合わせたエネルギー使用量に相当する CO2 排出量について、EMS 導入前比 33%減となる年間 932t-CO2（トン CO2）の削減を達成したことをお知らせいたします。



（コロワイド MD 神奈川工場）

グループのセントラルキッチンで基幹工場でもある「神奈川 CK」（所在地：神奈川県横須賀市佐原）では、去る 2022 年 12 月、電力・ガス使用量の削減とコスト最適化を目的として他工場に先駆けて EMS を導入、脱炭素化の取り組みを進めてきました。EMS はエネルギーの使用状況を“見える化”することで、エネルギー使用におけるムダ・ムラを特定、工場の設備稼働や操業オペレーションの最適化に気付きを与えると同時に、空調機器の温度制御や CO2 制御などのセンサー技術を活用した省エネ自動制御を併せ持ったシステムです。

新型コロナウイルス感染症による行動制限解除に伴う社会経済活動の再開で、当社グループの工場稼働率ならびに売上収益も順調に回復軌道を描いてきましたが、当社では、神奈川工場への EMS 導入を契機に、売上増の最中にあっても同工場におけるエネルギー使用量が一貫して減少してきた事実に着目しました。同工場におけるエネルギー使用量低減の背景として、当社が考える主たる要因は次の通りです。

1. (EMS 導入を機とした) 冬季の電力・ガス使用量、CO2 排出量、構内各所の気温、湿度、そして CO2 濃度などの環境計測の実施を通じて、エネルギー使用量の漸次低減を進めてきたこと
2. 夜間操業の見直しやボイラー効率の向上といった現場オペレーションの改善に資する気付きを実行に移したこと
3. EMS や同時期に導入した屋上設置型の太陽光自家発電設備の稼働等により、従業員の省エネに対する意識の向上が図れたこと



(EMS 画面操作イメージ)

コロワイドグループは、持続可能な社会の実現と中長期的な企業価値向上のため、自らが重点的に取り組んでいく重要課題(＝マテリアリティ)のひとつとして「地球環境への貢献」を特定、気候変動の緩和、循環型社会の形成に向けた脱炭素推進に向けて、CO2 排出量を「2030 年度までに 2020 年度対比、原単位*¹で 50%削減」することを目標に掲げております。

既に、コロワイド MD 管轄の神奈川工場含む全 5 工場において、屋上型太陽光の自家発電設備を稼働、再エネの活用によって年間 375t-CO2 の排出量低減も実現するなど、一連の取り組み効果もあって、直近 2023 年度における当社グループ全体の CO2 排出量は、原単位で 0.399 (122,037t-CO2*²) と 2020 年度実績の原単位 0.547 (135,687 t-CO2*²) 対比で 27.1%の削減を達成するに至っております。*³

当社グループではこの度の神奈川工場における CO2 排出量低減の実績に鑑み、今後、グループ内他工場にも同システムの実装も進めていくとともに、工場残渣の回収による肥料化、バイオガス化による再エネ転換などを目的とした食品リサイクル 100%の持続などを通じ、引き続き循環型社会の形成、気候変動の緩和に向けた脱炭素化の推進に取り組んでまいります。

*¹ 原単位 売上高百万円あたりの CO2 排出量

*² 国内グループ会社のスコープ 1、2

*³ 出典「コロワイドグループ統合報告書 2024」

https://ssl4.eir-parts.net/doc/7616/ir_material_for_fiscal_ym6/163684/00.pdf

以上

【報道関係の方からのお問い合わせ】
株式会社コロワイド 広報部
電話：045-274-5994 E-mail：sasutena@colowide.co.jp